

会に興味があり、スタンフォード大学の先生の講義が受けられることや、同じ志を持つ海外に興味がある皆さんとディスカッションができることに魅力を感じました。

プログラムに参加してみてもいい

知事:5カ月間のプログラムに参加してみてもいい、どんなことが印象に残りましたか？

友松:世界で活躍する外交官や起業家などのゲストスピーカーによる講義が印象的で、国際金融やSDGs、日米の政治・経済など学校では学べない講義が多く、とても刺激を受けました。観光・政治・経済・歴史など分野が違ってそれぞれがどこかでつながっていて、自分の興味と好奇心がさらに広がりました。

堀内:受講生同士のディスカッションが印象的でとても有意義な時間を過ごせました。

受講生の皆さんそれぞれの視点から話し合うことで、いろいろな考えが混ざり合って自分が考えてもいなかった意見に触れることができました。プレゼンテーションも自分が知らない内容が多くて勉強になりました。

知事:自分が興味を持っていた分野以外にも触れることで、自分はこんな可能性や好奇心を持っていたんだと気付くことができますよね。皆さんには無限の可能性があると思います。このプログラムが皆さんに新たな気付きを与えるきっかけになったとのお話をうれしく思っています。プログラム最終日にはプレゼンテーションがありました。お二人はどんなテーマを取り上げたのですか？

友松:私は過去の経験を踏まえて、SDGsのゴールの一つである「すべての人に健康と福祉を」をテーマにしたいと最初から考えていました。病院の先生や海外の友人にも意見を聞いて、海外では病気のことオープンに話す人が多いことなど、日本の考え方との違いを盛り込み、自分のプレゼンテーションが誰もが生きやすい社会をつかっていく一歩になればと思ひ、取り組みました。

堀内:私は環境問題に興味があり、特に身近な問題を解決したいと思ひ「ペットボトルとリサイクル」をテーマにしました。まずは分別回収の現状認識が大事だと思ひ、学校のごみ箱や回収ボックスの中の状況を調べたり、校内外でアンケートを取ったりしました。また、海外の状況と比較するために、海外に住んでいた友人や学校のALT(外国語指導助手)の先生にもインタビューし、改善点をまとめました。

知事:お二人とも、ご自身の体験や身近な環境問題に着目されて素晴らしいですね。このプログラムを通じて自分で考え、分析し、表現する大切さを学ばれたことが伝わってきます。

「Stanford e-Fukuoka」は、次世代の若者の皆さんが日米関係における将来の指導者になることを支援する教育プログラムです。将来、受講した皆さんが日米関係の担い手として活躍することを期待しています!がんばってください!

在福岡米国領事館

チュカ・アシーケ 首席領事



将来の夢

知事:今回の経験を将来どう生かしていきたいですか?お二人の夢を教えてください。

友松:将来は、観光を通じて日本の文化やおもてなしの素晴らしさを海外に伝え、日本と海外の架け橋となって、国際社会に貢献したいです。

堀内:私は「Stanford e-Fukuoka」のような海外の講義を日本でも受けられるようなプログラムの企画・運営をしたいです。

知事:未来に向かって、しっかりした考え方と夢を持っていらっしゃるのですね。このプログラムがお二人の未来の扉を開く一つのお手伝いになれたとしたらうれしいです。夢を現実のものとするために、これからさまざまな学びや経験を重ねてください。

県では、今後も若い皆さんの夢やチャレンジを応援し、「福岡県の次代を担う『人財』の育成」にしっかりと取り組んでいきます。本日はありがとうございました。

